

2016年度学校自己評価(中学・高等学校)報告(最終)

「学校教育法」「学校教育法施行細則」に基づき、2016年度に実施した「学校自己評価」の内容をご報告いたします。

(1) 報告までの概要

学校自己評価委員会を設置し、前年度の結果をふまえて内容の再検討を行い、「学校自己評価アンケート」を作成した。調査対象は中学校・高等学校の教職員(非常勤講師は除く)とし、2月に実施、3月に集計、評価委員会を設け、4月の理事会に報告した。

(2) 評価項目と評価方法

I : 評価項目

学校運営、教育内容、生徒指導・支援、教員研修・資質向上・その他の6つの項目に分類し、それぞれについての評価の観点を設けて実施した。

II : 評価方法

4段階の評価を行った。

A: よくあてはまる

B: ややあてはまる

C: あまりあてはまらない

D: まったくあてはまらない

(3) 重点テーマと重点目標

I : 長期的重点テーマ

命を育む女子教育

II : 2016年度の重点テーマ

生徒の為に、生徒と共に

III : 2016年度の重点目標

本校で学ぶ生徒の「心の成長」と「学力の向上」つまり、人間力のアップを目指し、「改革そして前進」をスローガンに具体的、実践的な努力を続ける。生徒にはそれぞれの教師が「声をかけ、目をかけ、手塩にかける」ことを日々実践していく。保護者との連帯を強め、学校の取り組みに対するご理解と支援を強力に推進していく。

IV : 重点目標の評価と課題

カトリックの教えに基づく、日々の学習・朝終礼や教職員とのかかわり、行事、各種活動を通して、生徒の心の成長が基本的な生活習慣や他者を思いやる姿勢にも現れている。「学力の向上」に関しても、夏期講座の取り組み、冬休みの外部講師を招いての講習、学年末における、合宿を含む次年度に向けての特別授業など多く取り組んできた。このような取り組みは保護者にも好評である。「学力の向上」は、長いスパンでこれからも取り組んでいこうと思う。

(4) 項目別評価と課題

I : 学校運営: 私学の独自性

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

	評価項目		A	B	C	D	2016年度 年度末	2016年度 年度中間
			1	建学の精神について	建学の精神が教職員、生徒・保護者など、学校関係者などによく浸透している	22.0%	52.5%	25.4%
2	愛校心について	在校生、卒業生は学校に誇りや愛着を持っている	20.3%	59.3%	18.6%	1.7%	79.7%	85.7%
3	カトリックの教えに基づく教育	宗教に基づく教育に対する生徒・保護者の理解がある	31.0%	55.2%	13.8%	0.0%	86.2%	83.3%
4	家庭との連携	学校に対する保護者の期待・要望を把握している	1.7%	60.3%	34.5%	3.4%	62.1%	62.5%

<1> 昨年は本部修道院での一泊研修を通して、建学の精神がよく浸透していったが、今年は、そういった取り組みがなかった ために評価が下がったように思われる。改めて啓発運動が大切であると思った。今後の活動に活かしていきたい。

<2> やや評価が低くなっているが、保護者に卒業生が多いという事が、愛校心を示していると思われる。成人式など、多くの卒業生が母校を訪ねる機会も設けている。さらに在校生・卒業生・保護者から愛される学校づくりを目指したい。

<3> 朝終礼のお祈りに加え、黙想も生徒たちに定着してきたので、このまま大切にしていきたい。

<4> 保護者アンケートの実施を通して、少し理解が深まった。校長の「信愛の心を深める会」もその一つであらう。しかし、まだまだ、フィードバックが足りないことも認識しており、十分とは言えない。

I : 学校運営: 教科課程

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

	評価項目		A	B	C	D	2016年度 年度末	2016年度 年度中間
			5	教育計画について	年間を通じた教育計画を各教科別に立てている	37.9%	51.7%	8.6%
6	教育課程の見直し	コース・類型に応じた見直しを行っている	15.5%	48.3%	32.8%	3.4%	63.8%	72.9%

<5> 高水準を保っているが、シラバスの充実へとつなげることも考えていきたい。

<6> カリキュラム編成会議は行っているが、多岐にわたる課題があり、検討が遅れがちとなってしまったので、評価が下がったのではないかと。教育課程の見直しについては、検討のスピードを上げていきたい。

I : 学校運営: 教職員連携

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

評価項目		A	B	C	D	2016年度 年度末	2016年度 年度中間
7	教員・教科間連携状況 教員間・教科間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている	12.1%	48.3%	36.2%	3.4%	60.3%	56.3%
8	会議の有効性 会議の内容の精選と検討事項の事前での伝達を行っている	8.6%	53.4%	36.2%	1.7%	62.1%	50.0%

<7>アンケートの趣旨を説明したが、少しの上昇にとどまった。教科を超えての相互理解を図る機会を設けていき

<8>事前の伝達等が徹底されたことで評価は上がったが、内容の精選に関してはさらに改善を目指したい。

I : 学校運営: 財務関係

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

評価項目		A	B	C	D	2016年度 年度末	2016年度 年度中間
9	財務に関する意識と財務状況 学校の経営指標と財務状況について理解し、予算・決算の状況について把握している	13.8%	60.3%	20.7%	5.2%	74.1%	68.8%

<9>事務局長による、中学校・高校単位での財務状況説明がなされたので昨年より大きく評価が上がった。今後、経営指標も含め、意識を高めてきたい。

I : 学校運営: 情報公開

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

評価項目		A	B	C	D	2016年度 年度末	2016年度 年度中間
10	ホームページの活用状況 学校のホームページで可能な範囲の情報公開をしている	37.9%	50.0%	12.1%	0.0%	87.9%	91.7%
11	授業公開状況 保護者などへ授業を公開している	44.8%	55.2%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%

<10>ホームページへの掲載情報をフェアキャストで案内することで、情報公開が定着してきた。今後も情報伝達システムを効率化していきたい。

<11>この高評価をこれからも維持していくための努力をしていきたい。

I : 学校運営: 危機管理

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

評価項目		A	B	C	D	2016年度 年度末	2016年度 年度中間
12	役割分担について 事故・事件・災害等に対処する役割分担や、備蓄・設備の状況を把握している	25.9%	70.7%	3.4%	0.0%	96.6%	75.0%
13	危機管理対応状況 危機管理マニュアル、警察・消防との連携、訓練などの安全対策は十分にとられている	19.0%	69.0%	12.1%	0.0%	87.9%	76.6%

<12> 担当者の活躍もあり、改めて自己の役割を意識できたし、備蓄品の保管場所についての検討もなされた結果大きく評価が上がった。

<13> 学校を上げての避難訓練が、授業の途中でより実践的に行われたことなどで意識が高まり、高評価につながった。危機管理については、まだまだ検討の必要は感じられる。

I : 学校運営: 開かれた学校づくり

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

評価項目		A	B	C	D	2016年度 年度末	2016年度 年度中間
14	地域交流について 地域住民との交流が行われ、地域行事への参加が盛んである	8.6%	46.6%	39.7%	5.2%	55.2%	54.2%

<14> 昨年同様、地域交流についての評価は低いが、地域の行事参加が部活単位で行われたり、地域の中学校の体育大会運営に協力するなど活発に行われている。しかし個々の教員には浸透していないようだ。もっとインフォメーションに努めたい。

I : 学校運営: 広報活動

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

評価項目		A	B	C	D	2016年度 年度末	2016年度 年度中間
15	校内説明会 説明会参加者に好印象を与えるような企画・運営をしている	17.2%	51.7%	24.1%	6.9%	69.0%	72.9%
16	中学校・塾訪問 中学校・塾への訪問が十分であり、新規開拓にも努めている	8.6%	37.9%	37.9%	15.5%	46.6%	45.8%
17	データの共有 各分掌の情報を集約し、適切に活用している	5.2%	50.0%	41.4%	3.4%	55.2%	47.9%

<15> 中学校の説明会で、日程の設定が適切でなく、極端に参加者の少ない説明会があった。また、1時間半のプログラムも長く感じられるのかもかもしれない。そういった内容をもう一度よく練り直したい。

<16> 塾訪問については、様々に改善すべき点がある。塾情報から洗い出し、より効率よく積極的に訪問活動を展開していきたい。

<17> 「各分掌の情報の集約」と表現していたものは、教務部や進路指導部の入試状況・進路状況と具体的に示した方がアンケートの意味が分かりやすくなるのではないかと考える。

II:教育内容:カトリック教育

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

	評価項目		A	B	C	D	2016年度 年度末	2016年度 中間
			18	心の教育	朝終礼、授業、行事、生活指導など、学校生活のすべての場面でカトリック校としての心の教育がなされている	22.4%	69.0%	8.6%

<18> カトリック教育一泊研修を今年に行っていないため、停滞感を感じている人もいるのではないかと。高評価ではあるが、本校としては最も大切にしたい項目でもあるので、環境作りにも取り組みたい。

II:教育内容:人権教育

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

	評価項目		A	B	C	D	2016年度 年度末	2016年度 中間
			19	研究体制	人権教育に関するさまざまな課題や指導方法を教員が研究する体制がある	13.8%	51.7%	34.5%
20	教育体制	人権尊重の教育において、さまざまな学習方法で意識を高める教育を行っている	10.3%	67.2%	20.7%	1.7%	77.6%	72.9%
21	いじめ防止対策	生徒の日常の変化を教員間で共有し、いじめの早期発見、防止に努めている	24.1%	67.2%	6.9%	1.7%	91.4%	91.7%

<19> 前半は研修も行われ意識も高まったが、年間を通しての継続的な取り組みに至らなかったことが、中間より評価を下げた原因と思われる。来年度も、人権教育に関する研究体制を整えたい。

<20> 各学年で考える機会が増え、生徒に話す内容も増えたことで、評価が上がった。

<21> いじめに関するアンケートを定期化することで、さらに取り組みを充実させたい。

II:教育内容:情報教育

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

評価項目		A	B	C	D	2016年度 年度末	2016年度 中間
22	情報能力育成 生徒の情報活用能力の育成を図っている	6.9%	65.5%	25.9%	1.7%	72.4%	64.6%
23	情報のモラル育成 情報の発信に伴う責任など、情報のモラル向上のための教育を行っている	10.3%	67.2%	22.4%	0.0%	77.6%	77.1%

<22> ICT委員会の発足や、ICT教育に関する研究出張に積極的参加する機会を得たことで行けることで、評価を上げた。さらに情報環境の整備を進めたい。

<23> 生徒対象の「スマホ講習会」を行ったが、意識の定着はまだまだであるので、これからも継続していきたい。

II:教育内容:環境教育

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

評価項目		A	B	C	D	2016年度 年度末	2016年度 中間
24	環境問題意識向上 ゴミ・リサイクル・省エネなど身近な問題から環境への関心を高めるようにしている	8.6%	60.3%	27.6%	3.4%	69.0%	56.3%
25	実践的態度の育成 生徒に清掃・校内美化に取り組ませている。また施設・設備を大切にすることを育成している	36.2%	60.3%	1.7%	1.7%	96.6%	93.8%

<24> 紙の分別の呼びかけや総合学習で「環境」をテーマにしたことで、意識の高まりを感じる。まだ十分とは言えないので、実践を通して意識の向上を図りたい。

<25> 高い評価に満足せず、継続していきたい。

II:教育内容:教科指導

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

評価項目		A	B	C	D	2016年度 年度末	2016年度 中間
26	理解度の把握 個々の生徒の学力理解度を把握し、それに応じた指導ができています	13.8%	69.0%	15.5%	1.7%	82.8%	79.2%
27	能力の伸長 コース別・選択授業など、個々の生徒の能力を伸ばすための体制ができています	19.0%	67.2%	10.3%	3.4%	86.2%	74.5%
28	教育機器の利用 教育機器を十分に活用している	13.8%	50.0%	32.8%	3.4%	63.8%	75.0%
29	模試などの分析活用 模試結果を共有し、学力向上に役立たせている	8.6%	63.8%	27.6%	0.0%	72.4%	81.3%

- <26> 学力差の開きが大きい現状ではあるが、それぞれの生徒に応じた指導に努めている。
- <27> 少人数授業、補習、特別授業の充実により、評価は高いが、あまりに少人の少ない授業に関しては検討していかねばならない。
- <28> 教育機器の経年劣化により、プロジェクター等を使った授業の評価が下がる傾向がみられる。
今後、ICT教育の推進に絡め、教育機器の充実を図る必要がある。
- <29> 年度の前半は、高3生全員が入試に向かっている時期でもあるので、模試などを分析活用する機会も多いが、中間より評価が下がるのは、AO入試、推薦入試で早くに進路が決まっていることによるものかと思われる。今後は、模試の分析会の頻度も上げ、学力向上に向けて取り組みたい。

II:教育内容:キャリア教育

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

		評価項目	A	B	C	D	2016年度 年度末	2016年度 中間	
30	キャリア教育の推進	中学1年から高校3年まで、6年間を通して、組織的・系統的にキャリア教育を取り入れている	12.1%	46.6%	34.5%	6.9%	58.6%	58.3%	

<30> 6年間のキャリア教育についてのシラバスを作成し、全教員に周知徹底していく。

II:教育内容:生徒支援

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

		評価項目	A	B	C	D	2016年度 年度末	2016年度 中間	
31	進路指導について	生徒一人ひとりの興味・関心・適正に応じた進路選択ができるような支援体制がある	12.1%	65.5%	19.0%	3.4%	77.6%	83.3%	
32		併設短大や協定校との連携が整い、適切な進路指導が行われている	20.7%	65.5%	13.8%	0.0%	86.2%	87.5%	

<31> 中間より少し評価が下がったのは、厳しい入試の結果を受け、支援体制に対する反省が数字に表れたようである。さらに、各学年における取組みを強化していきたい。

<32> 協定校が、来年度、一つ増えるなど、積極的な取り組みが評価されたと思われる。これからも一層の充実を図りたい。

II:教育内容:学校行事

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

		評価項目	A	B	C	D	2016年度 年度末	2016年度 中間	
33	スポーツ活動	体育大会・球技大会などのスポーツに関する学校行事は盛んである	56.9%	37.9%	5.2%	0.0%	94.8%	100.0%	
34	文化・芸術活動	文化祭、芸術鑑賞などの文化・芸術活動に関する学校行事は盛んである	58.6%	36.2%	5.2%	0.0%	94.8%	100.0%	
35	校外学習	遠足・修学旅行・自然体験などの行事が充実している	56.9%	37.9%	5.2%	0.0%	94.8%	97.9%	

- <33> 活発な生徒たちの活動を、これからもしっかりと支援していきたい。
- <34> 特に芸術鑑賞については、本物志向が受け入れられている。
- <35> 高校の修学旅行も海外プラン復活で高い評価を保っている。

II:教育内容:国際教育

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

評価項目		A	B	C	D	2016年度 年度末	2016年度 年度中間
36	国際理解の推進 海外研修や姉妹校交流を含め、他国の歴史の理解、異文化交流など国際理解に対する教育活動を行っている	48.3%	44.8%	6.9%	0.0%	93.1%	97.9%

- <36> オーストラリア・ラザホール高校との姉妹校提携が20周年を迎え、3カ月留学の実施などが高い評価につながっている。

II:教育内容:特別活動

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

評価項目		A	B	C	D	2016年度 年度末	2016年度 年度中間
37	部活動 部活動は活発である	63.8%	29.3%	6.9%	0.0%	93.1%	97.9%
38	生徒会活動 生徒会活動や委員会活動を通して、生徒が主体的に活動できる体制が整っている	25.9%	62.1%	10.3%	1.7%	87.9%	85.4%

- <37> 入部率も高く高評価であるが、中学生の運動部への入部率は低い。活動しやすい環境を考える必要がある。
- <38> 生徒会の主体的な活動ぶりが高評価につながっている。さらに、活動の場を広げていけるよう応援していく。

II:教育内容:その他

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

評価項目		A	B	C	D	2016年度 年度末	2016年度 年度中間
39	読書推進 読書や調べ学習など、図書館の利用促進に取り組んでいる	13.8%	65.5%	17.2%	3.4%	79.3%	66.7%
40	ボランティア 東北や熊本などの被災地支援を行い、困難に遭っている人々への関心を持ち、チャリティなどを含めたボランティア活動を積極的に行っている	34.5%	58.6%	6.9%	0.0%	93.1%	95.8%

- <39> 総合学習での図書館の利用促進が、評価を上げた要因と思われる。
さらに、各教科でも利用の促進を進めていきたい。
- <40> 東北への被災地訪問などの活動報告がしっかりとされている。献金や文化祭での募金活動・被災地の物産販売などの活動も定着している。

Ⅲ:生徒指導・支援:生徒指導

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

評価項目		A	B	C	D	2016年度 年度末	2016年度 中間
41	指導方針の一貫性と生活指導 学校の生徒指導は一貫した方針を持っており、かつ個々の生徒の状況に応じた生活指導が組織的に行われている	15.5%	65.5%	15.5%	3.4%	81.0%	76.6%

<41> 学校全体の指導による一貫性が教員に再認識され、中間より評価が上がった。これを継続していきたい。

Ⅲ:生徒指導・支援:生徒支援

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

評価項目		A	B	C	D	2016年度 年度末	2016年度 中間	
42	学習指導について 個々の生徒の実態に合わせた学習支援の方法の工夫・改善を行っている	19.0%	62.1%	17.2%	1.7%	81.0%	83.3%	
43	生徒支援について	障がい者に対する適切な支援を行っている	17.2%	62.1%	19.0%	1.7%	79.3%	89.6%
44		支援コーディネーターを配置し、支援の必要な生徒に対する情報を交換し、共有する体制がある	20.7%	65.5%	12.1%	1.7%	86.2%	89.6%
45		スクールカウンセラーを配置し、生徒や保護者の支援に積極的に取り組んでいる	36.2%	56.9%	6.9%	0.0%	93.1%	97.9%
46		保健・衛生	体調不良・怪我等への対応は適切である	41.4%	53.4%	5.2%	0.0%	94.8%
47	保健室の機能は十分に果たされている	36.2%	50.0%	13.8%	0.0%	86.2%	85.1%	

<42> 高評価ではあるが、評価項目が学習指導となっているため、Iの教科指導と混同している可能性が考えられる。支援方法の工夫や改善は引き続き行っていきたい。

<43> 中間報告より下がっているが、公共の支援なども含め、いくつかの課題について検討中である。

<44> 支援コーディネーターを増員し、体制を強化している。今後も充実させていきたい。

<45> スクールカウンセラーを増員し、環境を整えている。

<46> 生徒の不調や怪我に素早く対応し、保護者との連携もとれている。

<47> 学院の保健センターの取り組みが適切である。これからも生徒の為にセンターと協力していきたい。

IV:教員研修・資質向上:教員研修

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

	評価項目		A	B	C	D	2016年度 年度末	2016年度 中間
48	教員の資質向上について	教員間で授業内容を評価し、意見の交換などを行う機会がある	10.3%	58.6%	25.9%	5.2%	69.0%	68.8%
49	校内研修	身近なテーマの研修計画を立て、適宜研修を行っている	6.9%	44.8%	43.1%	5.2%	51.7%	50.0%
50	初任者のサポート状況	初任者等、経験の少ない教員をサポートする体制がある	5.3%	49.1%	36.8%	8.8%	54.4%	25.0%
51	校外研修	教員が校外研修に参加できる体制が整っている	10.3%	46.6%	31.0%	12.1%	56.9%	44.7%
52	研修成果の共有状況	研修、研究に参加した成果を、教員間で共有する体制がある	3.4%	46.6%	37.9%	12.1%	50.0%	27.1%

<48> 来年度は研究授業のあり方を改善し、教員の資質向上を図る。

<49> 評価項目の「身近なテーマ」という表現を具体手的に示していく。

<50> 初任者からの報告もあり、サポート体制があることは認知されたが、まだ十分ではない。

今後、新任だけでなく、初担任や非常勤講師にもサポートを広げて行きたい。

<51> 神戸大学附属中等教育学校での一斉研修を実施したことで評価は上がったが、まだ十分とは言えない。

研修に参加しやすい環境を整えたい。

<52> アクティブラーニングに関する出張報告が行われたことで評価が上がった。

今後もこのような場を作っていく、教員の意識を高めたい。

V:その他:事務室

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

53	接遇	事務室の保護者や来校者に対する対応が適切である	7.4%	64.8%	20.4%	7.4%	72.2%	73.7%
----	----	-------------------------	------	-------	-------	------	-------	-------

<53> 電話対応や来校者に対する対応は、事務室だけの問題ではないので、

接客に関するマナー研修を事務部・教員合同で実施したい。